

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 24001：大学発グリーン・イノベーション創出事業（文部科学省）】

1 日時：平成 22 年 10 月 1 日 16：00～16：20

2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室

3 聴取者：相澤議員、奥村議員、白石議員

外部専門家 14 名（うち若手 5 名）

4 説明者：環境エネルギー課 田口康課長

5 施策概要

人材育成・基礎基盤研究から新技術の実証・国際展開まで、大学が有する広範なポテンシャルを総合的に活用することにより、グリーン・イノベーションによる我が国の成長に不可欠な人材育成、研究開発、新技術の実証及び技術の国際展開のための体制と活動を強化する。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

3つの事業が提案されている。個々の事業のネットワークと、さらに、3つの事業全体がネットワークを形成して活動していくと理解する。全体のネットワークを機能的に動かすために、どのようなマネジメントをとるのか。

【文部科学省】

基本的に補助金を出す文部科学省が調整していくが、ネットワークのステアリング・コミッティをつくり、マネジメントする。

【奥村議員】

各分野がバラバラに取り組むことのないよう、全体のガバナンスをしっかりとってほしい。各分野でリーダー、責任者を決めることが成功の条件だと思う。

【文部科学省】

補助金を配分する拠点機関を中心に、責任関係をつくり、良いネットワークのシステムにしたい。

【白石議員】

Green Network of Excellence と「緑の絆」の関係で、「緑の絆」は個々の大学が応募する事業。Green Network of Excellence はネットワークの拠点を作る。この拠点機関に「緑の絆」の資金も投入し、海外展開も一緒に実施するなら、非常に有機的に見える。そうでないのならば、バラマキ型の印象を受けるが、なぜこのようなデザインにしたのか。

【文部科学省】

例えば、振興調整費で環境リーダーの育成事業を実施しているが、7年間で約 500 人の途上国の卒業生が出てくる。これをネットワーク化するだけでも意義深い。17 の拠点大学が振興調整費で出来るが、この中のいくつかの大学は、Green Network of Excellence になる可能性があるため、同じ大学の中で両方やるのであれば、連携を取ってもらう。

【白石議員】

現在、人材育成の事業をしている拠点機関のパフォーマンスを評価し、悪いところは除外するなど工夫をすべき。今までの経緯から、今後も継続させるというのは納得がいかない。

【文部科学省】

拠点大学だから補助するというよりは、案件ごとに補助しようと考えている。

【外部専門家】

Green Network of Excellence のミッションは教育、人材育成にあると思うが、実施期間は何年間か。このミッションはグリーン・イノベーションに資する人材を育てていくことだと思うので、中長期的なビジョンを持って実施していただきたい。中途半端になると、非常に困った状況に陥る心配がある。

【文部科学省】

期間は5年間である。その後、事業の評価をして、次も実施するかどうか決める。全く同じ形で、次の5年間も実施するということはないと考えているが、ネットワークを成長させて、事業自体を進化させたい。その中で長期的なコミットをどうするか検討したい。もともと単年度予算の中で実施している事業でもあるので、少し工夫したいと思う。

以上